

最初のお話をします。

私は、子供の頃から音楽が好きでした。そういうこともありまして、将来は音楽の道に進みたいというふうに思っていました。しかし、現実にはなかなか厳しいものがありまして、プロの道は諦めてしまいました。大人になった今は、会社で働きながら音楽を楽しんでいます。プロにはなれなかったにしても、好きなことを続けられるというのは、とてもすてきなことだと思います。

さて、ここで、子供たちが将来なりたい職業について調べたアンケートを紹介してみたいと思います。

その結果によりますと、小学生がなりたいと思っている職業の第一位は、女子の場合ですとお菓子屋さんというものでありました。男子のケースを見てみますと、プロのスポーツ選手というものでありました。一方で、高校生の回答について見てみますと、学校の先生が第一位でありました。それから、医師や薬剤師などの医療関係でありますとか、IT関連の職業が上位に入りました。また、公務員や会社員といった堅実な職種が選ばれています。自分の進路を選ぶ時期が近づいてきますと、現実的な職業に関心が向かっている様子がうかがえます。

また、同じアンケートでは、十年前との比較も掲載されていました。それを見てみますと、

最新の結果には、十年前のランキングに入っていなかったような職業があります。例えば、動画の配信とか、あるいはまた、デジタル技術を使った分野などに関心が集まっているようです。

こういったことから、子供たちのなりたい職業というものは、その時代の流行でありますとか、社会情勢などが大きく反映されているということがよく分かりました。

ところで、学生の皆さんは、大人になったらどのような仕事をしたいと思っていますか。なりたいものがあるという人は、それに向かって頑張つてほしいと思います。もちろん、成長して経験を積んでいく中で、なりたいたいのものが変わっていくのも当然のことです。中には、なりたいたい職業や将来の夢が見つからないという人もいるかもしれません。しかし、それで焦る必要はありません。自分がなりたいたいと思えるものに、これから出会うかもしれないからであります。

大人の皆さんは、子供の頃になりたかった職業に就くことができましたか。私は、音楽の道には進めなかったわけですが、まだ夢を持っています。それは、世界中を旅して様々な音楽を聴きたいというものであります。夢というのは、誰でもいつでも持てると思うのであります。

次のテーマに入ります。

ここ最近であります。若い人たちの間ではやっていることがあります。それは何かといいますと、編み物であります。芸能人でありますとか有名人がインターネットで作品を公開しまして、その影響で人気が広がってきているのであります。今日は、このことについてお話をしたいと思います。

まず、編み物の歴史について触れてみたいと思います。

編み物の起源はとても古くて、はつきりとしたことは分かっていない部分が多いようであります。しかし、石器時代から作られていたようでありまして、それは一本の糸を使つて作られた網のようなものでありました。そういうことから、糸や縄を編む技術は古くから存在していたというふうに考えられています。日本でも、縄文時代の土器などからその痕跡が見つかっているようであります。やがて、様々な素材や技法を用いまして、生活に役立つものが作られるようになっていきました。そして、これらが産業として発達しながらいろいろな国に伝わっていく中で、日本にもやってきたというわけであります。

さて、人気が広がってきている編み物の世界であります。注目されているのが癒やし効果ということでもあります。どういうことかとい

ますと、同じ作業を繰り返すことでリラックスできるというのであります。確かに、編み物をしていますと、知らず知らずのうちに時間がたっていることがあります。一つのことに集中することで、気持ちがりフレッシュするのであります。これは、科学的にも証明されているようであります。

また、編み物は手軽な創作活動であります。物を作るときの楽しみがあります。作品が出来上がったときの達成感もあります。さらに、これは世界に一つだけの作品であります。お金では買えない価値がありますし、大切に使うという気持ちにもなります。

今の時代は、機械化によって様々なものが大量に作られるようになりました。しかも、簡単に安く手に入るので、なかなか自分で編み物をしようと思うことがなくなっていました。とはいえ、今述べたような理由で編み物が見直されているのであります。私も、これをきっかけに編み物を始めてみようと思いました。これからますます寒くなってくる季節でもあります。皆さんも編み物の世界を楽しんでみてはいかがでしょうか。

最後に、私がテレビで見た、ある行事についてお話をします。

それは、今年の初めのことでありまして、天皇陛下が招いた人たちとともに和歌を披露して

いるものでありました。これは、宮中で行われる行事の一つなのでありますが、毎年テレビで放送されています。私は、この行事にとっても興味を持ちました。

まず、そもそもこの行事がいつから始まったのかということですが、はつきりとは分からないようであります。しかし、少なくとも鎌倉時代には行われていた記録があるというふうに言われています。

次に、この行事の流れについて述べてみたいと思います。

その披露の仕方ではありますが、独特であります。まず、初めの一人が和歌をゆつくりと区切りながら詠みます。そのとき、語尾を伸ばして詠むのが流儀となっているようであります。そして、二番目の人が節をつけて歌うように詠んでいきます。さらに、別の人たちがそれに合わせて詠んでいきます。一つの和歌を二回詠みましたら、次の和歌に移ります。このように進んでいきます。テレビでは、一つ一つの和歌について解説がされまして、とても分かりやすいものとなっています。

ところで、これに私たちも参加できるというのは御存じですか。この行事は、長らく宮中の限られた人だけで行われていたのでありますが、一般の人向けに毎年お題を発表するようになりました。そして、そのお題に沿った和歌を募集

しています。しかも、これは外国にも募集しているようであります。これに私たちも応募することができるというわけであります。

この応募については、いろいろな決まり事があります。例えば、応募できるのは未発表のものだけであります。そして、一人一作品に限るという条件があります。また、原則として書道半紙に毛筆で書くというような指定もあるようであります。

応募した作品が選ばれると、宮中に招待されます。選ばれたことがある人の中には、中学生や高校生もいるということです。また外国の人が選ばれたこともあるようであります。今年のお題は「夢」でありました。外国からのものも含めて、一万六千余りの応募があつたということです。

これまでいろいろと述べてまいりましたが、皆さんの感想はいかがでしたか。この行事が気になりませんか。まだよく分からないという人も、一度御覧になってみてはいかがででしょうか。和歌の情景などが思い描かれることでしよう。これをきっかけに、自らの体験を和歌にしてみたくなるかもしれません。(了)